様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６９２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ００６３９

研究課題名（和文）万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国際比較

研究課題名（英文）"Japan" in EXPO-international comparision from a viewpoint of arts and media

研究代表者
暮沢　剛巳（KURESAWA, TAKEMI）

東京工科大学・デザイン学部・教授

研究者番号：８０５９１００７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,700,000円

研究成果の概要（和文）：万国博覧会は長期にわたって多くの国家や企業が参加し、様々な伝統文化や先端技術が一堂に会するイベントである。本研究は、暮沢が研究代表者を務めた以前の2つの万博研究の成果を礎として、1970年の大阪万博を筆頭に、過去に日本国内で計画・開催された複数の万博の展示計画、及び海外の万博・国際博における日本館の展示を、国際比較を念頭に置きつつ、芸術学社会及び社会学・メディア論的なアプローチによって検証し、そこに様々な形で現れる「日本」という表象を考察することを主な目的として実施され、ある程度の成果を上げることに成功した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
過去2回の万博研究では、万博を主に芸術学の観点から検討し、1970年の大阪万博において前衛芸術が果たした役割や、実現の機会を逸した紀元二千六百年万博における芸術展示の計画について、現地調査や文献調査を通じて、ある程度解明することに成功した。その成果を踏まえて企画された本研究では、芸術学に加えて社会学やメディア論の観点を新たに導入し、1970年の大阪万博を中心に、過去に開催された万博における「日本」という表象を新たにとらえ返すことに一定の成果を収めることができた。

研究成果の概要（英文）：World expositions are long-term events in which many countries and companies participate, and different traditional cultures and cutting-edge technologies converge under one roof. This study examines the findings on two previous world expositions's studies, for which Kuresawa was the principal investigator, to analyze exhibition plans for multiple world expositions in Japan, starting with the Osaka Expo in 1970, and exhibitions of Japanese pavilions at international expositions. Simultaneously, we consider international comparisons by investigating approaches by art studies, sociology, and media theory and Japan's representation in various forms. This plan succeeded in achieving certain results.

研究分野：美術史、デザイン史

キーワード：万博　芸術実践論　社会学　メディア論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景
（１）本研究の研究代表者である暮沢剛巳は、過去に①「大阪万博における前衛芸術―考察と国際比較」（基盤（C）2011－2013）と②「万博に見る芸術の政治性－紀元 2600 年博の考察と国際比較を中心に」（基盤（C）2014－2016）という 2 件の万博研究を行った。①は 1970 年に開催された大阪万博の国家パビリオンや企業パビリオンの展示に多くの美術家、音楽家、デザイナらーが関与していたことやその具体的な成果を様々な資料や証言をもとに解き明かそうとしたものであり、一方で②は 1940 年に開催が計画されながら戦局の悪化のため中止となった紀元 2600 年博の開催計画を資料を通じて明らかにし、なかでも芸術の展示計画を仔細に検討しようとするものであった。研究に当たってはいずれも国際比較という視点を導入し、①では 1958 年のブリュッセル万博や 1967 年のモントリオール万博、②では 1937 年のパリ万博や 1939 年のニューヨーク博、1930 年代の植民地博などを、比較的近い時期に開催された他の海外の博覧会を比較対象に、大阪万博や紀元 2600 年博の実像を浮かび上がらせようとした。このアプローチによって、暮沢は万博を芸術面から考察してある程度の成果を上げたことを自負する反面、今後より研究を深化させるために、万博に異なった側面からスポットを当てたいとの意欲も持っていた。そしてそれは 2 つの研究に研究分担者として関わった江藤光紀、および②に研究協力者として関わった鯖江秀樹も同意するところであった。そこで三者は、本研究の申請時に議論を行い、芸術面に加えて、新たに社会学やメディア論の観点から万博へのアプローチを試みることで合意し、この分野の専門家であり、万博にも強い関心を持つ飯田豊と加島卓を新たに研究分担者に迎えることとし、両者ともその申し出を快諾したことによって、本研究の研究体制が構築された。
（２）研究を遂行するにあたっては、1970 年の大阪万博を筆頭に、過去に日本で開催された万博、および海外で開催された万博の日本館を対象に、芸術学、社会学、メディア論の観点からスポットを当て、「日本」という表象を浮かび上がらせることを目的とした。この目的は、過去 2 回の研究で一定の成果を上げた国際比較という視点を、本研究でも導入することによってもたらされたものである。

２．研究の目的
　１．で述べたように、本研究の目的は万博が表象する「日本」とは何かを問うことであり、それは国際比較という見地に立ち、また芸術学に加え社会学・メディア論的なアプローチを導入することによって実現可能となる。本研究課題の広がりは極めて大きいが、4 年間の研究期間内に５人のメンバーによって行える研究の範囲には限りがあるため、当初の計画段階では以下のテーマに絞る予定であった。

１．万博を通じてみる芸術の世代論
２．万博と芸術祭の比較研究
３．大阪万博における企業パビリオンの研究
４．日本万博における広報戦略
５．日本館における「食」とその表象
６．万博・博覧会を通じての日独文化交流
７．21 世紀の万博におけるサステナビリティの追求
８．万博の現在―芸術学と社会学の視座からの研究

　このテーマは、芸術学、社会学及びメディア論という本研究での研究アプローチに、5 人のメンバーの個々の専門領域を加味して決定した。実際の研究に着手した後は、個々のメンバーの関心の変化に加えて、コロナウイルスの感染拡大によって 1 年間の遅延を余儀なくされたことによって大きな計画の変更を余儀なくされた。なかでも、当初５人全員での視察を予定していたドバイ万博に関しては、2020 年秋からの開催予定が 1 年延期となり、さらに 1 年遅れの 2021 年秋からの開催に際しても、各メンバーの所属機関から渡航許可が下りなかったため、誰一人として会期中の視察を行えなかったことは、当初の計画変更の大きな要因となった（2023 年 3 月、ようやく渡航許可が下りたことに伴い、暮沢が現地で跡地調査を行ったが、既に万博は終了しており、また研究期間満了間際だったこともあって、その成果報告は後述の論集にて行う予定である）
　最終的に後述の（１）中間報告書及び（２）シンポジウム記録集に採録した報告及び論考の研究テーマは以下の通りである。

（１）
１．アスタナ万博に見るエネルギーの「未来」と「夢」
２．大阪万博とビデオア・アート
３．ロボとパン――翳りの万博史のための試論

４．2025 年大阪・関西ロゴマーク選考と市民参加
５．鼎談 泉眞也先生を偲ぶ ご業績を振り返って

（２）
１．万博と原子力－ブリュッセルから大阪へ
２．大阪万博とビデオ・アート――中谷芙二子の「3 つの顔」
３．大阪万博のデザイン史 1970/2025
４．通過点まであと少し 70 年博会場計画原案と上田篤
５．泉眞也と日本の万博

これらの研究テーマのなかには、開始段階では想定されていなかったものも含まれているが、それぞれ充実した成果を上げたものと自負している。同じく、当初の計画段階のテーマのうち、３．４．７．８．など、いくつかのテーマに関しては最終まで研究を継続することができたものと自負している。

３．研究の方法
研究の方法としては、当初の計画段階では、（１）現地調査、（２）文献調査、（３）関係者への聞き取り調査、の３つを想定していた。（１）は、5 人のメンバーがそれぞれの研究課題に応じて国内外の各所を実際に訪れ、必要な情報を収集して回るというもので、2 年目である 2019 年末までは比較的順調に推移していたが、2020 年初という以降は世界的なコロナウイルスの感染拡大によって行動が大幅に制約され、ドバイ万博の視察を行えないなどの弊害が生じた。（２）は各自が研究上必要な文献を調査するもので、各自が購入や閲覧などを行った。コロナウイルスの感染拡大のため、外国語文献の入手に手間取ることはあったものの、それ以外は順調であった。（３）は各自が必要に応じて関係者への聞き取りを行うもので、コロナウイルスの感染拡大で外出に不自由するようになって以後は、オンラインの会議ツールなどを活用することもあった。
なお 2020 年の夏以降は、計 4 回に渡ってオンライン研究会を実施した。これは、コロナウイルスによる研究の遅延を補うべく、メンバー外の研究者を招いて研究発表および討議を行い、また当面の間対面形式では不可能であった研究打ち合わせの機会を確保することが目的であった。その内訳は以下の通りである。

① 立石祥子「メディア研究」潘夢斐「博覧会の起源」（2020 年 8 月 23 日）
② 小原真史「イッツ・ア・スモール・ワールド：帝国の祭典と人間の展示」（2021 年 3 月 12 日）
③ 阪本裕文「フィルムアートフェスティバル粉砕運動と反博」（2021 年 8 月 23 日）
④ 岡田朋之「ドバイ国際博覧会に見る万博の現在とこれから」（2022 年 4 月 17 日）

これらの研究発表のうち①～③は、後記の中間報告書に、④はシンポジウム記録集にその要旨が採録されている。

４．研究成果
本研究の計画段階では、研究成果の発表は基本的に個人単位とし、メンバーがそれぞれ個別に論文執筆や学会発表等を行うものとするが、5 人全員の成果発表の場として、（１）最終年度にメンバー外の研究者を交えたシンポジウムを行う、（２）最終年度の終了後に、各自の研究成果をさらに発展させた 5 人全員の論考を収録した研究論集を出版することを予定していた。４年計画の２年目まではおおよそこの予定通りに推移していたのだが、2020 年以降のコロナウイルスの感染拡大によって、計画終了の１年遅延が確実になるなど、多くの計画が滞り、研究計画の大幅な変更を余儀なくされたため、それに伴い、当初 2021 年中に開催を予定していたシンポジウムの 1 年延期を決定するなど、研究成果の発表に関しても当初の計画からいくつかの変更を行った。主な変更点は

① 当初の研究期間の期限であった 2022 年 3 月末に、5 人の論文、海外の招待研究者の論文 1 本、オンライン研究発表の要旨 4 本を掲載した中間報告書を作成した（詳細は業績欄を参照）
② シンポジウムを当初予定より 1 年後の 2022 年中に開催することとし、同年 12 月 17 日に、5 人のメンバーと海外のゲスト研究者 2 名（スワスモア大学教授ウィリアム・ガードナー氏（米）とハウス・デア・クンスト学芸員ザラ・ヨハンナ・トイラー氏（独））を交えたシンポジウムを開催した。当初は会場での対面形式での開催を計画していたが、コロナウイルスの感染防止等の観点からオンライン開催とした。
③ 研究期間の期限である 2023 年 3 月末に、②のシンポジウムの記録及びオンライン研究の要旨１本を掲載したシンポジウム記録集を作成した（詳細は業績欄を参照）

の 3 点である。現時点で、本研究の研究成果は①および③に集約されている。
なお上記のような制約はあったものの、5 人のメンバー全員が研究期間中に個別の研究成果の

発表を精力的に行った（詳細は業績欄を参照）ほか、当初の計画通り、研究論文集の出版が決定し、現在その刊行準備を進めている最中である。研究論集には、5人のメンバーが中間報告書及びシンポジウム記録集に収録した研究成果をさらに発展させた論考を掲載し、また本研究の各種記録を採録する予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計27件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 暮沢剛巳	４．巻 79
２．論文標題 幻の万博「紀元二千六百年万国博覧会」と交通・都市計画	５．発行年 2019年
３．雑誌名 運輸と経済	６．最初と最後の頁 103－109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鯖江秀樹	４．巻 53
２．論文標題 生存のためのデザイン――横井庄一の家と衣	５．発行年 2020年
３．雑誌名 京都精華大学紀要	６．最初と最後の頁 26-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鯖江秀樹	４．巻 7
２．論文標題 ある「訳注」への補遺――ウンベルト・ボッチョーニの彫刻とロベルト・ロンギのエクフラシス	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ディアファーネスーー芸術と思想	６．最初と最後の頁 133-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 加島卓	４．巻 47-9
２．論文標題 二つのデザイン・サーヴェイ：考現学以後の建築とプロダクト・デザイン	５．発行年 2020年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 182-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加島卓	4．巻 178
2．論文標題 エンブレム問題から考える建築の公共性と創造性	5．発行年 2019年
3．雑誌名 建築雑誌	6．最初と最後の頁 7-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯田豊	4．巻 48.-3
2．論文標題 磯崎新のメディア論的思考 ―マクルーハン、環境芸術、大阪万博	5．発行年 2020年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 227-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 江藤光紀	4．巻 7
2．論文標題 パリと万博	5．発行年 2018年
3．雑誌名 モーストリー・クラシック	6．最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鯖江秀樹	4．巻 12
2．論文標題 近代運動」のパリンプセスト――《トッレ・ヴェラスカ》とエルネスト・ロジャースの建築論	5．発行年 2018年
3．雑誌名 表象	6．最初と最後の頁 118-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takashi Kashima	4．巻 33
2．論文標題 Design history of the Tokyo 2020 Olympic Games: Emblem Selection and Participatory Design	5．発行年 2021年
3．雑誌名 The Review of Japanese Culture and Society	6．最初と最後の頁 in print
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takashi Kashima	4．巻 8
2．論文標題 Takashi Kashima, Media History and the Historical Sociology of Media in Japan, 1990s-2010s	5．発行年 2021年
3．雑誌名 東海大学紀要文化社会学部	6．最初と最後の頁 127-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takashi Kashima	4．巻 7
2．論文標題 Tokyo 2020 emblem problem and sociological description: Focus on the way of making and using designs	5．発行年 2021年
3．雑誌名 東海大学紀要文化社会学部	6．最初と最後の頁 107-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯田豊	4．巻 49‐11
2．論文標題 放送人、小松左京 一九六〇年代のメディア論的想像力	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 115‐125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鯖江秀樹	4．巻 55
2．論文標題 自動販売機のエレジー（下）　―オートメーションの人間史	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都精華大学紀要	6．最初と最後の頁 35‐44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 暮沢剛巳	4．巻 2
2．論文標題 ICOM倫理規定とアイヌ民族博物館	5．発行年 2022年
3．雑誌名 埼玉大学教養学部 観客と共創する芸術	6．最初と最後の頁 241‐264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 江藤光紀	4．巻 22
2．論文標題 パビリオンを読む ： つくば科学博における「環境」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 論叢　現代語・現代文化	6．最初と最後の頁 1‐23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 暮沢剛巳	4．巻 1
2．論文標題 アスタナ万博に見るエネルギーの「未来」と「夢」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国際比較」 中間報告書	6．最初と最後の頁 2‐11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯田豊	4．巻 1
2．論文標題 大阪万博とビデオ・アート	5．発行年 2022年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国際比較」 中間報告書	6．最初と最後の頁 12‐20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鯖江秀樹	4．巻 1
2．論文標題 ロボとパン――翳りの万博史のための試論	5．発行年 2022年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国際比較」 中間報告書	6．最初と最後の頁 21‐29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加島卓	4．巻 1
2．論文標題 2025年大阪・関西ロゴマーク選考と市民参加	5．発行年 2022年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国際比較」 中間報告書	6．最初と最後の頁 30‐40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 江藤光紀	4．巻 1
2．論文標題 鼎談 泉眞也先生を偲ぶ ご業績を振り返って	5．発行年 2022年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国際比較」 中間報告書	6．最初と最後の頁 41‐50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 暮沢剛巳	4．巻 1
2．論文標題 万博と原子力ーブリュッセルから大阪へ	5．発行年 2023年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）18H00639「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国 際比較」シンポジウム記録集	6．最初と最後の頁 2‐9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯田豊	4．巻 1
2．論文標題 大阪万博とビデオ・アートーー中谷芙二子の「3つの顔」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）18H00639「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国 際比較」シンポジウム記録集	6．最初と最後の頁 19‐25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加島卓	4．巻 1
2．論文標題 大阪万博のデザイン史 1970/2025	5．発行年 2023年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）18H00639「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国 際比較」シンポジウム記録集	6．最初と最後の頁 26‐33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鯖江秀樹	4．巻 1
2．論文標題 通過点まであと少し 70 年博会場計画原案と上田篤	5．発行年 2023年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）18H00639「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国 際比較」シンポジウム記録集	6．最初と最後の頁 34‐39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 江藤光紀	4．巻 1
2．論文標題 泉眞也と日本の万博	5．発行年 2023年
3．雑誌名 科学研究費補助金 基盤（B）18H00639「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国 際比較」シンポジウム記録集	6．最初と最後の頁 46‐53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鯖江秀樹	4．巻 13
2．論文標題 ローマ・クアドリエンナーレ研究 エンリコ・プランポリーニによる自作絵画の配役	5．発行年 2022年
3．雑誌名 あいだ／生成	6．最初と最後の頁 13‐16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 江藤光紀	4．巻 24
2．論文標題 1960 年代の泉眞也―大阪万博までのキャリア形成	5．発行年 2023年
3．雑誌名 論叢　現代語・現代文化	6．最初と最後の頁 1‐22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 加島卓
2．発表標題 デザインの「作り方」と「使い方」：エンブレム問題におけるメディアの送り手と受け手のワーク
3．学会等名 第67回関東社会学会大会
4．発表年 2019年

１．発表者名 飯田豊
２．発表標題 メディア・イベントの来歴と未来
３．学会等名 日本未来学会　月次研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 暮沢剛巳
２．発表標題 1964/2020　オリンピックのデザインの比較
３．学会等名 デザイン史学研究会第15回シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 鯖江秀樹
２．発表標題 芸術の前線――ローマ・クアドリエンナーレの貫戦史
３．学会等名 表象文化論学会第15回研究集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 飯田豊
２．発表標題 オリンピックとメディア技術史
３．学会等名 第3回ＪＱＡフォーラム
４．発表年 2018年

１．発表者名 飯田豊
２．発表標題 Technology × Media Event
３．学会等名 シンポジウム「通信技術と未来のメディア・イヴェントの発展」
４．発表年 2018年

１．発表者名 加島卓
２．発表標題 デザインを展示するとはいかなることか
３．学会等名 文化資源学会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 加島卓
２．発表標題 デザインと社会学をめぐる群像：嶋田厚・柏木博・東京大学社会情報研究所
３．学会等名 文化社会学研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 加島卓
２．発表標題 計画的陳腐化と社会学的記述
３．学会等名 日本社会学会大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 加島卓
２．発表標題 柏木博と日本の社会学：デザイン史、広告史、広告都市論
３．学会等名 社会解釈学研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 飯田豊
２．発表標題 テレビの可能態 ―メディア考古学の視座から
３．学会等名 革新的意味創出研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 飯田豊
２．発表標題 メディアとしての博覧会資料 ーアート・アーカイブ利用の経験から
３．学会等名 万博学研究会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計11件

１．著者名 暮沢剛巳ほか	４．発行年 2019年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 321
３．書名 視覚文化とデザインーーメディア・リソース・アーカイブス	

１．著者名 暮沢剛巳ほか	４．発行年 2020年
２．出版社 森話社	５．総ページ数 425
３．書名 スポーツ/アート	

１．著者名 鯖江秀樹ほか	４．発行年 2020年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 297
３．書名 風景の哲学	

１．著者名 飯田豊	４．発行年 2020年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 272
３．書名 メディア論の地層ーー1970大阪万博から2020東京五輪まで	

１．著者名 暮沢剛巳、江藤光紀、鯖江秀樹ほか	４．発行年 2018年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 295
３．書名 幻の万博―紀元2600年をめぐる博覧会のポリティクス	

１．著者名 暮沢剛巳ほか	４．発行年 2018年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 300
３．書名 戦後史の切断面―公害・若者たちの叛乱・大阪万博	

１．著者名 暮沢剛巳、清水知子	４．発行年 2021年
２．出版社 NextPublishing Authors Press	５．総ページ数 249
３．書名 「多元主義」を理解するための30冊：多様化する世界を読み解き、生き抜くために	

１．著者名 暮沢剛巳	４．発行年 2022年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 301
３．書名 ミュージアムの教科書ー深化する博物館と美術館	

１．著者名 Noriaki Kitazawa, Yuri Mitsuda, Takemi Kuresawa	４．発行年 2023年
２．出版社 History of Japanese Art after 1945 Institutions, Discourse, Practice	５．総ページ数 400
３．書名 Leuven University Press	

１．著者名 日高勝之、飯田豊ほか	４．発行年 2022年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 280
３．書名 1970年代文化論	

１．著者名 鯖江秀樹	４．発行年 2022年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 324
３．書名 糸玉の近代ー二〇世紀の造形史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	江藤　光紀 (Eto Mitsunori) (10348451)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
研究分担者	加島　卓 (Kashima Takashi) (20569165)	東海大学・文化社会学部・教授 (32644)	
研究分担者	鯖江　秀樹 (Sabae Hideki) (30793624)	京都精華大学・芸術学部・准教授 (34317)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	飯田　豊 (Iida Yutaka) (90461285)	立命館大学・産業社会学部・教授 (34315)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
科学研究費補助金 基盤（B）18H00639 「万国博覧会に見る「日本」――芸術・メディアの視点による国際比較」シンポジウム	2022年～2022年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関